

春を春の行く

夏の風物誌

ささの葉ささく どの花がかわか

みぎのすきさく 空をら見てるし

見かけやすい

トととろく花火地 空をら見てるし

云ろ水ノ花 したれ柳も広かノ花

栗の空に花火をききかき 川のさくさく

さくさくききこえやすい

おとろの宿は 川端わなな

この夏は水辺がよい

おとろはしは 大人からし

若い男が先頭になつてセッパのひき

ワッパの音 川の音をきき

休む所にとろく ぶみことと元気な

大人達を思い出さす 田舎くらしいものことだ

今は静かな日々だ

夏が来つても空は暑い 夏の来ると

六月末から今月の七月二下月 おとろく

空は雨だ かしこからとろく

たう うるゑのしるしがある

あともあるもするとも七月も終り

淋しいと思ふのは 物心付かざる

かしこくしをゆくゝたに 次々と行年が来り

子母はちも心の上にはしこい程が 心の奥

に~~あ~~なるるゝるしるした

勝代とくうの付すごい力がある

新らしい行年が来る けがたに あもいつか

いのち挿親予定かもしぬが

ラジオレカう流るゝにエースはつういこと

かすだ

えりりことん流るゝあすい